【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第１区分
【発行日】平成21年2月5日(2009.2.5)

【公開番号】特開2007-207646(P2007-207646A)
【公開日】平成19年8月16日(2007.8.16)
【年通号数】公開・登録公報2007-031
【出願番号】特願2006-26712(P2006-26712)
【国際特許分類】
Ｈ０１Ｂ　13/00　　(2006.01)
Ｈ０５Ｋ　 3/10　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｂ　13/00　　５０３Ｄ
Ｈ０１Ｂ　13/00　　５０３Ｂ
Ｈ０５Ｋ　 3/10　　Ｃ

【手続補正書】
【提出日】平成20年12月12日(2008.12.12)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１４】
本発明の装置は、ロール・ツー・ロール（ｒｏｌｌ－ｔｏ－ｒｏｌｌ）で処理されるようにロール状の該前駆体の巻き出し部と、該前駆体を搬送しながら露光する連続露光部と、ニップローラ対またはサクションローラのいずれかの該前駆体を牽引する手段と、現像処理部と、該前駆体のハロゲン化銀乳剤層を除去するための水洗処理部と、乾燥部と、乾燥された前駆体をロール状に巻き取るための巻き取り部とを有する。ここで、ロール・ツー・ロールで処理するとは、ロール状に巻かれた前駆体Ｆ（以降、前駆体ロールという）を連続的に巻き出し、加工処理した後、再度ロール状に巻き取る方式である。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１７】
図１の巻き出し部において、ロール状の前駆体１２は、巻き出し軸１１に装着され、矢印の方向に連続的に巻き出されて搬送される。ロール状の前駆体１２は、内巻き（乳剤層側面を内側にして巻き取られている）になっている。巻き出し軸１１には、張力制御手段１３（例えば、パウダーブレーキ）が接続されており、連続露光部１０において、前駆体Ｆに加えられる張力が制御されている。張力制御手段１３は、連続露光部１０における前駆体Ｆの蛇行を抑制するために、前駆体Ｆに高い張力を加えており、４ｋｇｆ／ｍから１５ｋｇｆ／ｍの範囲が適当である。ロール状の前駆体１２には、最上巻きと最下巻きには、パターンの形成装置の搬送経路の全長に相当する長さのリードフィルムが設けられており、前駆体Ｆの製品部分は常に搬送速度および張力が制御された状態で搬送されるようになっている。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２２

【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２２】
透明円筒体１の周りには、図１に示すように、搬送ローラ９ａ、９ｂの他に、密着ローラ４、および粘着性ローラ１６が配置されている。図３（ａ）、および（ｂ）に示すように密着ローラ４は中央部が凸のクラウンローラになっており、その両端が軸受け５で軸支されている。透明円筒体１を挟んで対向する位置にバックアップローラ６があり、支持部材７に軸支されている。支持部材７には軸受け５を納めるスロットが切ってあり、軸受け５は、そのスロット内を透明円筒体１の半径方向に直動できる。また、支持部材７には、軸受け５を透明円筒体１の半径方向に押し付けるための押し付けネジ８が取り付けられている。軸受け５を、透明円筒体１の半径方向に押し付けることにより、密着ローラ４が透明円筒体１に押し付けられる機構になっている。従って、押し付けネジ８のねじ込み量を加減することにより、密着ローラ４が透明円筒体１に押し付けられる量が加減される。